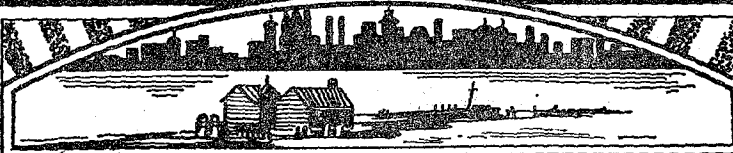


昭和七年

道路の改良

五月一日

第十四卷
第五號



言 頭 卷

帝國議會近く開會されむとす、其の臨時議會なると特別議會なるとの性質論は暫く措くとするも、朝野兩黨が其の主張する政策を國民に批判せしむるの機會を得たことを喜ぶ。積極政策は固より吾人の歡迎する所なるも、果して夫れが吾々國民の待望したる所に副ふものなるかを検討するを要する。蓋し國民の一部が内閣の交迭に依つて挽回するものと期望した不景氣は、吾人が言つた如く依然として退治されず、從つて歳入の缺陷は日を逐ふて増加し、夫れに加へて對支問題の爲に鉅額の國帑が要求されつゝあるとき、産業振興計畫を樹つことは頗る困難の時期に遭遇しつゝあるからである。

前内閣に於ては名を失業救済に藉つたにしても、其の結果から言へば、産業の振興と爲るべき土木事業の爲に二千七百萬圓の國帑の支出を決定し、之を實行する能はずして崩壊したのであつた。勿論その後に於て計らざる滿洲乃至上海事件が突發したにしても、前内閣と政友内閣の計畫する所とは僅に三百萬圓の差あるのみであつて、之をしも産業振興政策と言ひ得べくむば、前内閣亦産業振興政策を採つたと言ひ得る。唯だ事業計畫の動機乃至は理由が失業者の救済に在るか否かに過ぎない。一は積極政策を看板として消極政策を採つた内閣の行はむとする所を執行せむとし、一は積極政策の看板に捉はれて積極政策を行はむとするに在る。世の識者は此の如き誤魔化し政治に對して其の改革を絶叫してゐる。假令所論が誤つてゐるにしても議會否認論乃至は獨裁政治論が據頭し來るは、矢張り既成政黨の此種奸手段を抑壓せむとする思潮の顯れと見るべきであつて、議會政治を維持せむとするには政黨自ら其の奸手段を排斥することが必要であらう。